



1. ボランティアデビュー！



2. 地域で活躍 若松小学校



3. 生涯学習 この人に聞く



4. ふちゅう東西南北

生涯 楽習 だより

2020年 今年こそは ボランティア デビュー！

◆人の役に立つ! 自分も学べる!! 仲間ができる!!!
“学び”のボランティア のすすめ

2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年です。色々なシーンで「ボランティア」が注目されるでしょう。でも、大きなイベントの手伝いや災害支援だけがボランティアではありません。

身近な「学びのお手伝い」も立派なボランティアです。

ボランティアデビューには、三拍子揃った「“学び”のボランティア」がおすすめです。



例えば、△市民講座のアイデアを出す、△情報紙の話題を提供する、△講座の受付やイベントの飾り付けなどを手伝う、など。簡単でしょ！考えてみればすぐにでも始められることばかりです。またキャリアを積んだ方なら、それを活かして自らが教える側に回ることもできますね。とにかく、今出来ることを探しに生涯学習センターに来てください。

こんなボランティアは、いかが？

◎市内の公共施設でできる学びのお手伝い

<生涯学習センター>

- ・秋開催のフェスティバルの企画運営、当日手伝い
- ・市民講座のアイデア提供、各種講座の受付担当
- ・陶芸設備のメンテナンス など

<郷土の森博物館>

- ・太陽観望会のサポート
- ・民俗資料の整理、展示
- ・むかし遊びの指導
- ・園内植栽の管理
- など

◎ボランティア団体に参加

- ・援農ボランティア … 本紙3ページを参照
- ・観光ボランティア（市内の観光ポイントを案内）
- ・国際交流サロン（日本語・日本文化を教える）
- ・美術館（ガイド、イベントを手伝う）
- など

情報はここでつかもう！

・府中ボランティアセンター（ふれあい会館内）

⇒社会福祉ボランティアに関する情報を窓口で相談できます
TEL : 042-402-0232 月～土曜日 9時～17時

・市民活動センタープラット

⇒ホームページにボランティア募集の情報が掲載されています
トップページ > 団体情報 > ボランティア会員情報

・生涯学習ボランティア 「悠学の会」

⇒生涯学習センターでの様々なボランティアを紹介しています
連絡先：生涯学習センター受付
TEL : 042-336-5700

★「生涯学習ボランティア入門講座」
3/5 予定（詳細は広報ふちゅうで）





地域に密着、様々な活動を展開・活躍する小学生

府中市教育委員会の教育目標に、「ふるさと府中の歴史や文化を理解し、継承発展させる」「学びの成果を社会に還元し、地域教育力を高めていく」取り組みを推進するとあります。

今回は、この教育目標に則った取り組みで、児童たちが生き生きと活躍する若松小学校を取り上げます。

毎年9月に生涯学習センターで開催される「府中市生涯学習フェスティバル」会場1階のアトリウムを飾る創作展示品があります。

これを毎回協力、提供してくれているのが、若松小学校の児童たちです。図工の先生の指導のもと、みんな楽しく作っているそうで、きれいで、見栄えのする装飾が提供され、市民発表会のステージに華を添えています。

昨年は巨大なタペストリー風のパネル作品でした。



この他、若松小学校では、地域との

交流ともいえる、様々な活動を展開しています。

そのひとつは、「若松小学校よさこい同好会」です。OB、保護者と小学1年生から6年生までの希望者58名で形成され、13年の歴史をもつお馴染みの同好会です。毎年5月から週一回の放課後 國府よさこい所属の福元知子さんと、无邪志府中魁星所属の石井義浩さんの指導を受けています。令和元年の「けやきフェスタ2019 よさこい in 府中」では準大賞を獲得、むさし府中商工会議所会頭賞も受賞しました。



ふたつ目は、同じく同好会の「若松リコーダー隊」。やはり13年の歴史を重ね、OB 味澤明子さんを代表として、11名の児童と卒業生・大人12名を加えた23名で、コンサートや各所での発表会、福祉施設の慰問など、幅広く活動しています。また府中市生涯学習フェスティバルの市民発表会にも、毎回出演されています。

そして和太鼓クラブを最後にご紹介します。在校の4~6年生29名が活動している「若松小学校和太鼓クラブ」です。指導は武藏国府太鼓の小林香菜子さんと齋藤香織さんにより、だいたい月2回、月曜6時間目のクラブの時間に練習しています。芸術文化祭「太鼓の響」などに出演しているとのことで、ふるさと府中に残る、伝統文化を継承されています。

それぞれの同好会やクラブを通して、小学生たちはこれからも、地域で活躍して行くことが楽しみです。

今回取材を受けていただいた佐藤副校長先生によると、自己表現をすることの楽しさ・喜びを味わった子供たちは、さらに学習意欲、活動意欲が湧いてくるそうです。

若松小学校での自己表現の機会は、他にも、学芸会、作文、書道、箏、ピアノ、陸上、タグラグビー、野球、バスケットボール、料理、勉強、会話、ものづくりなど沢山あるので、自分の好きなこと、新しいことなどに取り組み、どんどん自己表現の喜びを味わってほしいと願っています、とのことでした。

(取材：渡邊、井口)

生涯学習 この人に聞く その(20)

援農ボランティアで80才を過ぎても元気に活躍中

NPO法人 府中かんきょう市民の会 竹田勇さん

ケヤキ並木の緑に魅せられて府中に移り住み38年、リタイア後、現役時代の知識と経験を生かして、第二のふるさと府中で、水と緑の街の“環境”と“援農”をテーマに活動を続けておられる竹田さんに、その思い、元気の秘訣を聞きました。



援農ボランティアを始めたきっかけは?

まず自己紹介をさせてください。今84才です。奈良・法隆寺近くの農家の次男に生まれ、大学では農芸化学を専攻。卒業後農薬会社に就職、会社では農薬の研究開発や環境安全の仕事をし、アフリカ・南米・東南アジアの発展途上国で農業支援にもたずさわりました。

71才で仕事をやめたあと、「府中かんきょう塾」に2年間通い、府中の環境を学び、「府中かんきょう市民の会」、「かんきょう塾ネット」の会員となって、府中の環境にかかわる市民活動を始めました。

私はずっと“農”にかかわる学び・仕事をしてきましたから、“農”に関する課題にはいつも率先して取り組みました。「田んぼの学校」や「れんげまつり」、そして今私は「援農ボランティア」のリーダー役をしています。

どんな援農活動をされていますか?

府中市の「援農ボランティア制度」は、農作業の手助けを希望する農家に、ボランティアをあっせんするもの(平成10年より)ですが、「かんきょう市民の会」からも希望者がまとまって参加しています。現在、25名(男女同じくらい)が2軒の農家さんのお手伝い。ハウス野菜栽培の市村農園(押立町)と小林農園(南町)。そして新しく始まるのが多摩川ネギ栽培の宮崎農園(南町)さんです。農園主さんと日時を調整して、草取り、手入れ、収穫、出荷、畑の片付けなど、人手のかかる単純作業・軽作業のお手伝い。月2~3回、1日2時間くらいです。

援農作業で心がけておられることは?

ボランティアの平均年齢は70才くらいですから、作業は一人でしない、大勢でおしゃべりしながら作業する、無理をせず健康に気をつける、といったことで



しょうか。私は、最近、しゃがむ作業など無理な姿勢はなるべく避け、立ってできる作業を心がけています。

援農の楽しみ、充実感は?

天気の良い日に畑で何も考えず無心に汗をかく爽快感でしょうか。また、休憩時に農園主や援農仲間とおしゃべりするのが楽しみです。そして、帰りには旬の野菜をお土産にいただくのも、ありがとうございます。

秋には収穫祭のイベントを開催し、援農仲間と農家さんが一堂に会し収穫に感謝、バーベキューを楽し



ます。10年も同じ農家さんとつきあっていると、親戚同然のおつきあいとなっています。

元気・健康の秘訣は?

私は人一倍自分の身体を動かすのが好きです。ゴア元米副大統領の『不都合な真実』の映画を見て、マイカーも10年ほど前に手放しました。農園へは歩いて、または自転車で通っています。さらに、ほぼ毎日、夕食前、スポーツクラブに通っています。目的はプール。水中歩行300m、クロール100m、ブレスト100mが日課。多くの仲間と知り合い、お話しするのが楽しみで、かんきょう市民の会にも、援農にも誘ったりしています。

あとは何でも好き嫌いなく食べる。生まれ育った環境が戦前の小作農家だったのですから。それから今、麻雀教室で“脳トレ”にも力を入れています。女性も多く、たくさん刺激をもらっています。

最後に、援農ボランティアを始めた方へメッセージを

まず、身体を動かすのが好きなことが必要でしょうね。今、府中では、さまざまな形の市民農園、シェア農園、野菜栽培体験農園などがあります。ぜひ都会の人も、街中で土に触れてほしいと思います。

インタビューを終えて:

お話を聞くにつけ、竹田さんは“農”とともに生きてこられた、土の香りただよう、人間大好きの方とお見受けしました。いつまでもお元気で農園に。

(記:奥野英城 取材:奥野/西谷/山田/渡邊)

前回の東西南北で紹介した郷土の森の『緑光燐舞』という彫像。えっ?! こんなところに…という出会いでした。府中にはいっぱい屋外に設置されたアート作品があるよ、ということなので、それではと身近を探してみることに。生涯学習センターからインテリジェントパークまで、アートとの出会いを求めて、約2.5km・1時間半の道を歩いてみました。(渡辺、井口、鈴木、柴田、中井、西谷)



1 出発点・生涯学習センターで目を引くのは、オレンジ色の立派なオブジェ。最近お色直しを終え一層青空に映えています。

作品1 雲 (作) 永廣 龍次

1984年の神戸須磨離宮公園の現代彫刻展で、朝日新聞賞を受賞した作品です。

芸術には全くの素人でこの作品の良さはわかりませんが、オレンジ色の鮮やかな色は、見ているだけで元気が出ます。是非ご覧あれ!



2・3

アート巡りの一行6人は、

美術館通りを西に進み府中市美術館へ。ここにもあるはずですが… ウロウロ探しても見つかりません。受付で「府中市の彫刻案内」というパンフレットを購入し、やっと2つ見つけられました。



作品2 地下のディジー (作) 若林 薩

ディジーとは“ひなぎく”的こと。花の可憐さと植物の力強さを象徴的に表現しています。多摩に生まれ育った作者の、武蔵野への思いがこもった作品です。

何の変哲もない、ただただ真四角の鉄板が地面に置いてあるだけと見ていました。説明を読んで、地中3mに及んで鉄板が120枚も重ねられていることにビックリ!

地下の部分を想像する作品だったのですね。



作品3 木の耳 (作) 光島 貴之

作者は目が見えないため、主に触覚を使って製作しています。

「木にも耳があって、世の中の様々な音を聴いていてもおかしくない」と思ったそうです。巨大なきくらげが重なり合っているような作品で、とても目の見えない人が製作したとは思えませんでした。



4

次は桜通りを西に。ケヤキ並木を過ぎたところにちょっとした広場があり、駆け回る子供たちと、地を這うカエルの像がありました。



作品5 童童広場 (作) 蔡内 佐斗司

仏像の修復を学んだ作者が日本の古典技能を生かした作品で、市民と童子が共存できる空間を目指しています。

童(わらべ)たちが裸で楽しそうに走り回っていると、一緒に走りたくなるような像です。カエルたちも今にもケロケロ飛びだしそう。なんとも楽しい広場でした。



ここで紹介したのは「彫刻のあるまちづくり」の作品一覧に載る17作品の中の6点です。そのほか、平和の森公園、府中の森公園や、道端の小さなスペースにもアート作品がありました。「府中市の彫刻案内」(上の写真)には、何と44もの作品が紹介されています。

今回、路傍のアート作品との出会いを求めて歩いてみて、あらためて作者の思いに触れ、感動しました。皆さんも、少し歩いて探してみませんか。

6 さらに桜通りを西に進み、インテリジェントパークの入り口へ。ここには繭(まゆ)の彫像がありました。

作品6 繭のかけ橋 (作) 中島 幹夫

2つの極を持つ繭の形は、かつての養蚕の記憶とともに、新旧2つの町が一体化して発展していくことを象徴した作品です。その下に多摩川の流れに見立てた砂利が敷かれています。

なぜ繭?と不思議に思っていました。案内を読みいろいろな思いが込められて製作されていたことに納得。とにかく大きい繭です。



編集後記: 元号が令和に代わって2年目、いよいよ2020東京オリンピック・パラリンピックの年となりました。1964東京大会の時は、首都高速道路、東海道新幹線の建設、地下鉄、羽田空港の整備、墨田川の浄化、東京の街をきれいにするなど、皆、身近に関心を寄せたものでした。今回は当時の金メダル16個を上回る活躍が期待されています。どの競技が有力なのか、興味津々。もう今からテレビの前で声を出している光景が見えてくるようです。(渡邊)

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課

ふちゅう生涯学習センター共同事業体
府中市生涯学習センター

〒183-0001 府中市浅間町1-7 Tel 042-336-5700

ホームページ：<http://fuchu.shogaigakushu.jp/>